

## BARFOUT! information



June 2009 volume 166 music and other entertainment of tokyo BARFOUT!  
www.barfout.jp 5月20日発売(WED) on sale!

### 特集 Face to Face

今月は、異色のセッションをおこなう、パフの人気コーナー「Face to Face」の拡大版として大特集!  
その表紙を飾るのは、本誌がデビューから追い続け、共に20歳となったシンガー・ソングライター、加藤ミリヤと清水稲太。共作である新曲「Love Forever」について、じっくり迫ります! また、松山ケンイチと麻生久美子、今作の監督・横浜聡子とラヴコールを受けて主題歌を担当した、100sの中村一義、「重力ピエロ」の原作者・伊坂幸太郎と主演の加瀬 亮による貴重な初対談など、本誌ならではの切り口とビジュアルでお届けします!

他、DOPING PANDA、隼人、成宮寛貴、剛 紫「美我空」in 奈良(本人撮り下ろしによる6P拡大版)、中島美嘉、榮倉奈々、MiChiなどなど、掲載!

(次号予告) BARFOUT! 7月号、6月17日発売!

表紙には、松田龍平が登場! 剛 紫「美我空」は次号も拡大版。他、福原美穂×香椎由宇などを予定。

## middle & mellow information

昨年10月に、クレイジーケンバンドの音源を集めた「middle & mellow of Crazy Ken Band」と、Saigenjiらが所属する(Happiness Records)の音源をコンパイルした「middle & mellow of Happiness Records」の2タイトルからスタートしたコンピレーション・シリーズ。第3弾がリリース! 土岐麻子の「middle & mellow of Asako Toki」と、(P-Vine)の洋楽音源から選曲した「middle & mellow of P-Vine Records」です!

この後も続々、リリースしていきますので、ぜひ、お楽しみに!



「middle & mellow of Asako Toki」  
土岐麻子  
発売中  
(LD&K)  
www.ldandk.com/  
music.html  
www.tokiasako.com



「middle & mellow of P-Vine Records」  
V.A.  
発売中  
(P-VINE)  
www.p-vine.com



「middle & mellow of toko furuuchi」  
吉内東子  
発売中  
(ポニーキャニオン)  
www.tokofuruuchi.net



「middle & mellow of Universal Music」  
V.A.  
発売中  
(Universal Classics & Jazz)  
全て、選曲・監修  
jiro yamazaki  
a.k.a.jay-brown

## authentica live information

パフが行ってきたライブ・イベント「club authentica」が4月27日(月)に行った「authentica lounge vol.30」で30回目を迎え、「authentica lounge」としてリニューアルしました! 次回の「authentica lounge vol.31」は、5月28日(木)に行います! 開場は、渋谷の(tangerine)にて開催。ライブ・アクトに、今月号の「authentica」ページのインタビューに登場した、韓国(ソウル)出身のシンガー・ソングライター、J-Minが出演します! 切なきこみ上げる歌声をぜひ生で体感してみてください。他にも、ライブ・アーティストをブッキング中。決まり次第、www.barfout.jpでお知らせします。なお、BARFOUT!本誌、またはフリペお持ちの方、先着5名様のみ入場フリーに致します。また、先着10名様に、BARFOUT!オリジナル・ポスター(毎号の表紙をフィーチャ)をプレゼント! パフ・スタッフ一同、みなさんのご来場をお待ちしています!



日時:5月28日(木)  
start:19:30~(23:00頃まで)  
live:J-Min、他  
fee:1,000yen(1ドリンク付)  
場所:(tangerine)  
渋谷区渋谷3-6-4 ブライア渋谷B1F  
tel 03-3797-6307  
www.tangerine.ws

music and other entertainment of tokyo

# BARFOUT! PAPER

JUNE 2009 volume 030

www.barfout.jp

## 成宮寛貴

×  
〈hummel〉

×  
BARFOUT!

## school food punishment



narimiya models collaborate style

## 成宮寛貴 × <hummel> × BARFOOT!

テキスト 寺川尚美 撮影 片桐史郎(高橋事務所) スタイルリング 小林 新(高橋事務所) ヘア&メイクアップ Inomata(I'ATELIER)



レインボージャケット(12,600yen)、レインボーパンツ(10,500yen)、サイドテープジャケット(12,600yen)、シューズ(ピンク×ホワイト、レッド×ホワイト、ブルー、ブラック)(各14,700yen) / 以上、hummel

成宮寛貴と、デンマークのスポーツ・ブランド<ヒュンメル>、そしてbarfとのコラボレーション企画がついに完成! 昨年末から打ち合わせを重ね、本誌 vol.161 の本誌発表を経て、成宮自身が色から細部までこだわってデザインした、エナメル・スニーカー4色と、ジャージ2型(上記参照)。彼自身も「ぜひ、男性女性問わず着用してほしい」と満足度120%で発売中の本誌 vol.166 にて、本人着用スタイリングでお披露目しています!

barf 今回のようなアパレルとのコラボ・アイテムを制作したり、旅をして新たなプロジェクトを動かしていたり(今後のブログでチェック!)、かなり意欲的に行動して形にしていますよね。

成宮 その時その時、俊敏に対応するっていうか。何より、人生を楽しみたいと思ってるんですよ。で、楽しみたいっていうのは楽しみたいということではなくて、一生懸命に生きたいっていう意味で。あとは、何かやらさそうっていう気持ちもすごく大事で。だから、自分の中にあるものを100%出してお披露目して欲しいか。それぐらいしないとやっぱり人の気持ちで動かさないで

すしね。  
barf 今回のコラボ制作もそうでしたね。実際、商品が出来上がっていかがですか?  
成宮 大満足ですね。4色のスニーカーは、今の時代を歩く靴として、カッコイイですよ。すごく快適だし。それに足元から自己主張することって大事。今年たまたまピンクは大流行だし、可愛い。個人的にはブルーもすごく気に入っています。そして2型のジャージ。僕はジャージ大好きなので、どうせ普段から着るなら、オシャレなジャージがほしかったので作りました。あえて内側にラインを入れたクールな黒白と、成宮っぽく(笑)レインボー。今回、(ヒュンメル)っていうカッコいいブランドと共に、僕が今思い付く最大のクリエイションができたと思うんです。僕もセットアップで着ますよ!

★詳しくは、本誌 vol.166 にてチェックして下さい!!

Information  
主演作「ドロップ」(品川ヒロシ監督)が全国公開中。www.drop-movie.jp  
成宮寛貴ブログ ameblo.jp/h-narimiya/



barf6月号での成宮流 mix スタイル撮影時の様子。

Information  
hummel  
www.hummel.co.jp  
(エスエスケイお客様相談室)  
tel.0120-50-7789

## ケリー・ヒルソン

テキスト 堂前 茜

写真をご覧の通り、とても美しい女性であり、シンガー・ソングライター/歌手としても抜群の才能を持った才女。現在1stシングル「Energy」と「Turn Me On feat.Lil Wayne」がビルボード上昇中、日本デビューも今年7月に控えた、ケリー・ヒルソン、アトランタ出身の25歳だ。01年、ソングライター/プロデューサーでシーンに登場して以来、これまでにアッシャー、クリス・ブラウン、メアリー・J. ブライジ、チンギー、P. ディディらに楽曲を提供。近年ではプリティー・スピアーズの復帰作となった楽曲「Gimme More」が話題となった。同曲はソングライターとしてのターニング・ポイントとなった作であると言う。

「彼女の悪いパフォーマンスも悪いパブリシティも重なってしまったけれど、それでも曲はヒットしたわ。この曲は、ヒット・ソングは誰にも止めることはできないということを知らした曲なの。だからとても誇りに思ってる。ちなみに、ヒット・ソングを書くためには、いくつかのキー・ポイントがあるの。反復があること、変わってなきゃいけないけど、同時にシンプルであること。それから、1つのことを言う時でも何千もの言い方がある。だから私はいつも、1番ありがちではない言い方で言うように心掛けてる。あとは繰り返しを持つようにしてる。まあでも1番大事なのは、とにかく楽しむことだけだ」

遂に発表された1stアルバム「In A Perfect World...」(輸入盤)は、サウンド・プロダクションの中心に、ティンバランド、ポロウ・ダ・ドンらを置き、ニーヨ、エイコン、カニエ・ウェスト、キーシャ・コールなども参加。冒頭でも触れた楽曲に加え、ニーヨとカニエがPVにも出演する(2人がケリーを運って喧嘩するというベタだが完成度の高い作品だ)楽曲「Knock You Down feat.Kanye West & Ne-Yo」など、華やかなトラックからエッジで斬新なトラックまで収録する。

「他のライターが書いた曲は2曲だけ。だから今作はとてもパーソナルなアルバム。これで自分の進む道を築けたの。私の声はちょっとかすれているけれど、だからこそ私のソウルを表現できると思ってる。シンガーとしては、ローリン・ヒルやダニー・ハザウェイに影響を受けたけど、ブロンディやマドンナ、ジョージ・



マイケルなんかも聴いて育ったの。黒人だからとか、関係ないのよ。音楽は音楽だもの。そして音楽は今またそういうものに戻りつつあるわ。それがすごく嬉しいの」

「In A Perfect World...」(輸入盤)  
ケリー・ヒルソン  
発売中  
(ユニバーサルミュージック)  
www.myspace.com/kerihilson



# school food punishment

テキスト 堂前 園



混沌と秩序を両立させるロック・バンド—— school food punishment の登場である。ハイブリッドでマニャックなサウンドとプログレッシブな曲構成、美しく流麗なメロディと“個”が確立したヴォーカル——ノイジーなのにどこかキラキラしてて駆け出したくなるようなポピュラリティを備えた楽曲を作り出すその力は、バンドの基礎体力の高さと共に、限りない可能性を感じる。そんな彼らが、いよいよメジャー・デビュー・シングル [futuristic imagination] をリリースする。インディー・レーベルより (タワーレコード) 先行で発表された前作 [Riff-rain] は、(タワーレコード) の J インディー・チャートで1位を獲得。

結果、バンドは少しの自信を手に入れたのと同時に、いよいよもって前へ進んで行くための“覚悟”を決めたのだった。

barf 前作が (タワーレコード) でチャートで1位を獲得と。その辺りから、楽曲制作において、“よりポップに”という意識があったと思いますが、聴き手の欲するポピュラリティと見事に一致してきたという結果ですね。

内村 友美 (V & G) より多くの人に私たちの音楽を伝えたいと思って前作 ([Riff-rain]) は制作したので、それが受け入れられたというのはすごく嬉しかったですね。試行錯誤の甲斐があり

ました。

蓮尾 理之 (Key) それまではやはり、特に僕は上モノ担当でもあるので、自分たちが出したい音をいかに具現化するか? みたいなところに重点を置いていたんですけど、そういう意味でも、環境も変わってより多くの人の歌を届けるために、「こうしなきゃ俺じゃない」みたいな部分にいい意味でこだわらないようにする“覚悟”をしました。

barf とてもキャッチーだと思うし、よりメッセージが伝わりやすくなりましたけど、やっぱり音数が多かったり展開が特殊だったりしますね (笑)。

蓮尾 (笑) そうですね。ガツと攻めたい気持ちもあったので。今回、アニメ [東のエデン] のエンディング曲にさせて頂いたんですけど、監督 (神山健治) もすごく気に入ってくださって、基本的に楽曲は自由に制作することができて。

barf 歌について、意識の変化はありますか?

内村 例えば、今より若い時、カラオケに行ったりすると、やっぱりその人のマネに結果なることが多かったと思うんです。けど、JUDY AND MARY さんのトリビュート・アルバムで [Brand New Wave Upper Ground] を歌わせて頂いたんですが、そこで初めて、人の曲でも自分っぽく歌えてるって思えたんです。自分の歌に自信が持てるようになったというか。だったら、私の声に乗ったら、もうそれで school food punishment なんだから、極端な話、メロディや歌詞がよりストレートになっても——代わりにこの音は入ってるから school food みたいなバランスさえ守ってさえいれば——何を抜いても足しても私たちのカラーになるんだと思えたんです。今回の歌でも、迫力が出てよかった。心を決めた感じで歌いたかったのもあったので。アニメとも、いい距離感に仕上がったと思いますし。実際見て、相乗効果というか、お互い高め合っているような関係性があるなって感じましたし。

barf 今回カップリングで、[you may crawl] (2nd ミニ・アルバムに収録) のリミックス・ヴァージョンが入っていて、しかも石野卓球さんという。

蓮尾 (笑) メンバーみんな好きなんです。

内村 私は姉がいたのもあって、小学生くらいから聴いていて、[N.O.] とか、すごい好きですね。なんだかすごく濃い1枚ですけど、以前よりも違った環境の中で「これが私たちです」とはっきり言うためには、それぞれ色も違う強烈なものを作るしかなかったんです。「みんなでこうしようぜっ」というようなノリで熱いコトを並べ立てるんじゃなく、暑苦しいようなロックじゃなく、表現として、“青い炎” 感が出るようなロック・サウンド——そちらの方が強い意志は伝わるんじゃないかなと思うし、そういうのを作っていきたいですね。

(4月13日 / 乃木坂にて)

[futuristic imagination]  
school food punishment  
5月27日発売  
(エピックレコードジャパン)  
www.sfp-sound.com/



# 『Hurley NIGHTS Vol.0』

テキスト 富樫 勲



1.オレスカバンド 2.STORY OF THE YEAR 3.Kylee

3月15日、ブランド設立10周年を迎えた〈Hurley〉が贈る、記念すべきロック・イベント「Hurley NIGHTS Vol.0」が〈ZEPP TOKYO〉にて開催された。「Freedom of Choice」をコンセプトに、サーフ、スケート、アートなど密接したカルチャーをアパレルに表現/融合する〈Hurley〉ワールドを体感するには最高の催しだ。当日は呆れるほどの快晴。〈Hurley〉ファッションで身を固め、詰め掛けた観客はエントランス、ライブ会場、ロビーなど至るところでハジけて……。

開催にあたって、「Hurley NIGHTS」のプロデューサー・Akilaは、次のように想いを綴っていた。

「コンセプトは「時を超えて人と人を繋ぐ楽しく熱いROCKイベント」。国内、海外、若手、ベテラン問わず才能溢れるアーティストの紹介の場となると同時に、ロック・シーンを活性化させるアイテムとなり、アーティストとオーディエンスのポジティブなエネルギーで現代の環境や社会にとっても良い影響を与える前向きなプロセスだと強く信じています」

そして、今回「Hurley NIGHTS」がフィーチャーしたアーティストは、Kylee、START FROM SCRATCH、SKY & AIRFIELD、MY LAST FALL、オレスカバンド、STORY OF THE YEAR。DJには、DJ OHNO (FLJ)、難波章浩 (Hi-STANDARD × ULTRA BRAIN)、DJ MAY-E が参戦! まず口火を切ったのが、アリゾナ州出身、若干14歳のロックの新星・Kylee。エモ、メロディック・パンクの流れを組んだサウンドに、キュートかつエネルギッシュな歌声を乗せて観客を魅了し、ティーン・カルチャーを担う逸材と感じた。オレスカバンドは新曲「What a Wonderful World」を披露。言葉の壁も軽々超えた楽しいステージング、元気印のパフォーマンスはここでも健在だ。ラスト、スクリーモ・シーンの第一線をひた走る5人組バンド、STORY OF THE YEARが登場!! 圧倒的な音圧に会場中がうねるうねる。約1時間に渡る壮絶パフォーマンスは圧巻の一言に尽きる。酔っぱらって汗かいて楽しんだ。帰り際、第2弾イベントを期待する声も多い、多幸感あるイベントだった!

## 大橋トリオ

テキスト 古宮 亜由美

ふんわりと心に溶け込んでくる歌声、ジャズやAORの要素を含んだ、優しくどこか切ないメロディ、そしてとびきりセンスのよいアレンジ、演奏の全てをほぼ1人で創り上げる、シンガー・ソングライター、大橋トリオ。昨年バファが行った「club authentica」にも出演してくれた彼の、メジャー・デビュー・ミニ・アルバム「A BIRD」がついにリリースされた! 大橋トリオは、大橋好規として、これまでも映画やCMなどの音楽制作、歌手への楽曲提供も行ってきた。そして、現在公開中の「余命1ヶ月の花嫁」の音楽も手掛けている。

彼の音楽は、生活のシーンの時々でピタッとフィットし、ひしひしと幸福感を感じられる。何度聴いても素晴らしいと心から思える、「A BIRD」はエヴァー・グリーンな名曲たちが詰まったアルバムだ。

「A BIRD」 大橋トリオ  
発売中 / (rhythm zone / エイベックス・エンタテインメント)  
[www.decadeinc.com/ohashitrio/](http://www.decadeinc.com/ohashitrio/) / [jp.myspace.com/ohashitrio](http://jp.myspace.com/ohashitrio)



## TIGARAH

テキスト 富樫 勲



ブラジルのスラム街、ゲッターで生まれたアンダーグラウンド・ダンス・ミュージック、バイレ・ファンキに魅せられた日本人アーティスト、TIGARAH。元々は、政治家、外交官を志し、慶應義塾大学法学部政治学科に入学。しかし、大学で催されるセミナーやディスカッションに参加するにつれて、政治の不誠実さを感じ、新たな活路を、音楽に見出す。理想的な制作環境を求めては単身ブラジル、アメリカへと渡り、「MySpace」を始めとしたネットワーク上でその名を広め、アメリカのテレビ・ドラマ「L Word」や「Numbers」の挿入歌として楽曲が使用されるなど、まずは欧米での評価を獲得した彼女は、先月、満を持して、デビュー・ミニ・アルバム「TIGARAH!」をリリースした。「音楽で、絶対、良い方向に世界を動かせる」。そう語るTIGARAHは、近い未来、カルチャー・ムーヴメントの中心にいるだろう。

「TIGARAH!」 TIGARAH  
発売中 / (FILE RECORDS) / [www.filerecords.com](http://www.filerecords.com)  
[www.myspace.com/tigarah/](http://www.myspace.com/tigarah/) / [www.tigarah.co.uk](http://www.tigarah.co.uk)